

事業概略書

家計改善支援事業実施のための教材作成及び困難事例の支援方法の開発に関する調査・研究事業

(報告書A4版 前編136頁、後編66頁)

<p>事業目的</p>	<p>家計改善支援は相談者本人に家計や生活に関する現状を理解してもらい改善へ向けた方策をともに探っていく支援であり、経済的に困窮しているへの生活困窮者自立支援において欠かせないものである。そのためには、まず家計改善支援事業への誤解を解き、基本的な支援の在り方、方法を周知して行くことが必要である。具体的には、以下の3つを目的として、調査・研究に取り組む。</p> <p>平成30年度から生活保護受給世帯への家計改善支援が実施されている。生活保護世帯ならではの支援の方法の工夫や関係する支援者との連携の在り方などが想定されるため、自治体の協力を得ながら対象者への実際の家計改善支援を通して、生活保護受給世帯に対応する家計改善支援の在り方を調査することを一つの目的とする。</p> <p>家計改善支援がなかなか広がっていない現状ではあるが、平成30年度以降自立相談支援と就労支援事業との一体的な実施が推進されることになり、家計改善支援の実施自治体が増加することが予想され、家計改善支援事業に従事する家計相談員の育成が急務となる。そのため、家計改善支援の第一歩に効果的に取り組めるよう、実際の支援の現場の豊富な経験を生かしてより具体的で実践的な映像教材の開発を二つ目の目的とする。</p> <p>また、家計改善支援が広がっていく中で支援が困難な事例へのより高度な支援方法の開発が必要となってきた面がある。特に高齢世帯では収入増が見込めず、2ヵ月に1回の年金収入を主とするためよりきめ細やかな支援は必要となってくる。家計改善支援の事例を重ねていく中で見えてきた高齢者向けの家計支援のノウハウを開発することを三つ目の目的とする。</p>
<p>事業概要</p>	<p>高齢者の支援に関わる社会福祉協議会とグリーンコープで高齢者部会を設置し、調査項目や支援ツールを検討し「高齢者向け家計表」「支払い計画表」「支払用仕分け袋」を開発した。</p> <p>さらに、実際の支援現場での調査を進めるために、福岡の複数の自治体の家計改善支援員によるワーキングチームを設置し、大牟田エリア、春日エリア、北九州エリアの10事例、さらに65歳以上の高齢者年金受給者にも対象を広げて最終24事例の調査を行い、高齢者支援用ツールが支援に役立つことを検証した。</p> <p>また、高齢者の支援の中で、食費のコントロールが課題となっている人のために、節約した材料費で、食生活も改善でき、簡単で美味しい献立集も作成した。</p>
<p>調査研究の過程</p>	<p>(1) 生活保護受給者の家計改善支援事業の利用に関する調査</p> <ol style="list-style-type: none"> ①平成30年度、生活保護受給者への家計改善支援事業を実施している10自治体の中から本事業の調査対象となる2自治体を選定した。 ②当該自治体と相談し、生活保護受給者(廃止・停止含む)で家計に変化や課題のある世帯など8世帯(各自治体4世帯)を調査対象にすることとした。 ③当該自治体職員、ケースワーカーと連携しながら、グリーンコープの家計改善支援員を派遣し、現地の家計改善支援員の協力を得て調査対象世帯への家計改善支援を行い、生活保護世帯ならではの支援方法や関係者との連携の在り方を調査した。

調査研究の過程

- ④ 調査対象となった自治体のケースワーカーには、今回の調査の受け止めに関するグループインタビューを行った。
- ⑤ 家計改善支援の内容や相談者のアンケート、ケースワーカーへのインタビュー内容などについて委員会で検討し、生活保護受給世帯への家計改善支援の効果や課題をまとめた。

(2) 家計改善支援普及のための映像教材の製作

- ① 支援現場の課題に応える実践的で実用的な映像教材の構成について、家計改善支援の役割やその効果、運用スキルなどが支援現場で理解が深まってない状況を踏まえて、現場の課題にも直接応え得る教材を検討した。また映像に登場する相談者や相談員はグリーンコープの家計相談員とすることを確認した。
- ② 数回に分けて実写部分の面談場面、同行支援の場面等の撮影を行った。
- ③ 概要についてはアニメーションにナレーションを入れる形で製作した。
- ④ 仮編集した映像教材についての討を重ねて完成させた。
- ⑤ 映像教材使った研修を行う際に、研修を深めてられるよう主催者用の手引書を作成した。

(3) 高齢者世帯の家計改善支援の支援ツールの開発

- ① 高齢者の地域での包括的な支援拠点である地域包括支援センター、高齢者介護の現場に意見を求めながら支援ノウハウを研究・開発していくために、2自治体エリアの社会福祉協議会より委員が加わり、家計改善支援との連携について検討した。
- ② 高齢者用の家計改善支援ツールとして、高齢者向けの家計表・支払い計画表の開発を検討し、実際の家計相談で使用して、課題や効果等を検討した。
- ③ 「高齢者向けの家計表・支払い計画表」を開発し、そのビジュアル化も行い、見やすく、使いやすいエクセルデータとして完成させた。
- ④ 高齢者の支援ツールの一つとして、食費を節約するための「一日2人1000円でくらす献立表」を作成した。

事業結果

(1) 生活保護受給者の家計改善支援事業の利用に関する調査

岡山市、坂井市の生活保護受給世帯への家計改善支援を実施し、その後モデル実施の結果を検証するため、①2自治体でモデル実施にかかわった自治体職員、対象となった世帯を担当するケースワーカーへのグループインタビュー、②対象となった世帯にアンケートの実施、③支援にかかわった家計改善支援員、自治体担当者からのフィードバックからの考察。

① 本人にとっての効果（本人の変化）

第1は、本人自身の気持ちや行動が前向きになることである。第2は、将来を考えた目標を持つという、未来への志向性が生まれることである。第3は、日常生活の質の向上がはかられたことである。第4は、自ら相談できる人ができるなど、受援力が醸成されることである。生活保護における自立は、「日常生活自立」「社会生活自立」「経済的自立」の3つの側面で捉えるが、家計改善支援による変化は、これら3つの自立をよりよく果たすことにつながる重要な要素であるといえる。

② ケースワーカー（福祉事務所）にとっての効果について

第1は、家計の見える化がはかられ、家計に踏み込んだ支援が可能になることである。第2は、ケースワーカーにはできない専門的なかわりにより、ケースワーカーには把握できない様々な事が把握できるようになることである。第3は、生活保護を実施するにあたってのアセスメントや、支援方針の策定がよりの確にできるようになることである。第4は、本人の生活の質を高めることができることである。家計改善支援員という、ケースワーカーとは異なる立場の支援者が、本人にかかわることで、ケースワーカーには言わないような、本人の困りごとやその背景にあることの把握が可能となり、よりの確な支援の実施につながっている。廃止後の生活設計をたてることにより、廃止の判断がよりの確にできることについては、本人のみならず、ケースワーカーにとっても安心につながると思われる。

事業結果

③家計改善支援員の専門性について

「家計を入り口に、本人に寄りそうことを通じて本人をエンパワーしていく支援」のプロであり、ケースワーカーへのインタビューでも、1回の面接で、本人との信頼関係を構築するとともに、ケースワーカーが日頃なかなか聞き取ることがなかなかできない、家計や生活の状況を把握するプロの支援を賞賛する声が多くみられた。

④支援の課題

- ・現在は、廃止が見込まれる世帯、および、進学を予定している世帯が対象となっているが、それに限らず様々な世帯に有効な支援であることがモデル実施からわかり、枠を創らず様々な世帯に支援を広げることの必要性が考えられる。
- ・ケースワーカーには言えないが、家計改善支援員には話ができる状況が生まれているが、組織として実施している事業であり共有していく必要がある。このため、利用者には支援員の役割や、生活保護の事業として実施していることへの理解をしてもらえるような工夫が求められる。
- ・生活保護と家計改善支援事業との協働、一体的支援の必要性多く語られた。家計改善支援事業については、廃止後についても切れ目ない支援が行えるようにすることが、世帯の生活の安定を考えると、きわめて重要である。
- ・家計改善支援事業の理念や考え方をふまえた質の高い支援ができる支援員を養成することの必要性についても語られていた。家計相談支援員が、自治体で実施しているケースワーカーのための初任者研修に、参加することなども有効である。
- ・支援によって生まれる変化を多面的に捉える評価を積極的に行う必要がある。
- ・生活保護世帯に対する家計改善支援事業においても、早期的・継続的支援、世帯への支援が必要であることが語られていた。

⑤相談者アンケートからの考察

- ・今回のモデル実施を利用した方々にとって、家計相談が肯定的に受けとめられていたことがうかがえる。「毎日の生活で、お金のことを意識するようになった。」「これから先のために貯めないといけないお金の金額がわかった。」という項目に○をつけた回答者がそれぞれ6名あった。家計改善支援員が支援したことの成果であるといえるだろう。また、「お金のことを自分以外の家族や他の人に相談できた。」に○をつけた回答者が5名あり、ここからは、お金のことを他者に相談することの難しさがうかがわれる。
- ・大学進学を控えた母子家庭からのお手紙からは、子どもが自分自身のことを後回しにしがちな状況、保護の利用が子どもにとってもスティグマとなっていたこと、進学後の厳しい現実に直面しつつも、様々な制度の紹介などで見通しが立ち、前向きにな気持ちは醸成され、本人の心の負担も軽減されたことが分かった。

(2) 家計改善支援普及のための映像教材の製作

家計改善支援事業の基本的な考え方、支援の在り方等の概要を分かりやすく解説し、実際の面談場面を再現した実践的な映像教材「相談者とともにすすめる家計改善支援」を製作した。さらに、出来るだけ多くの家計相談員や他の支援員とともに視聴し、より良い支援のあり方を考え、意見交換するための素材として活用いただきたいと考え、手引きを作成した。

＜映像教材「相談者とともにすすめる家計改善支援」の構成51分16秒＞

- 1) 家計改善支援の基本的な考え方と相談の流れ、家計改善支援の基本的な考え方と相談の流れ
 - ①家計改善支援の基本的な考え方と相談の流れ
 - ・家計改善支援の基本の5つの柱
 - ・家計相談員のこころ構え～信頼関係を形成するために傾聴を基本とする～
 - ②家計管理の基本となる家計表・キャッシュフロー表の意味と役割
 - ・相談時家計表
 - ・家計計画表
 - ・ライフイベント表・キャッシュフロー表
- 2) 初回面談への臨み方、主訴の確認
 - ・初回面談への臨み方・主訴の確認

- 3) 相談時家計表の作成～家計収支と食費以外の支出の聞き取り～
 - ・収入の聞き取り
 - ・食費以外の支出の聞き取り
- 4) 相談時家計表の作成～把握が難しい食費の聞き取り～
 - ・食費の聞き取り
 - ・相談時家計表を完成させる
 - ・初回面談の振り返り
- 5) 番外編・相談時家計表が黒字になった事例
- 6) 家計計画表の作成
- 7) ライフイベント表、キャッシュフロー表、家計再生プランの作成
- 8) 家計改善支援のまとめ
 - ①ロールプレイのまとめ
 - ②同行支援も重要な業務です

<手引き書の構成>

- 1) 家計改善支援映像教材の目的と活用のしかた
 - ①家計改善支援事業の取り組みの現状について
 - ②家計改善支援の映像教材「相談者とともに取り組む家計改善支援」の目的
 - ③家計改善支援映像教材の活用のしかたについて
- 2) 映像教材の全体構成——全体51分16秒
- 3) チャプター（章）ごとに大切にしたいこと
 - ①はじめに
 - ②第1章
 - ③第2章
 - ④第3章
 - ⑤第4章
 - ⑥第5章
 - ⑦第6章
 - ⑧第7章
 - ⑨第8章

（3）高齢者世帯の家計改善支援の支援ツールの開発

- ①高齢の相談者に家計管理をもっと分かりやすくするための高齢者向け家計改善支援ツールを開発した。
 - ◎高齢者向けに開発した「家計表（相談時家計表・家計計画表）」
 - ◎高齢者向けに開発した「支払計画表」
 - ◎高齢者向けに準備した「支払用仕分け袋」
 - ◎高齢者向けの1日二人800円以内でくらす1ヶ月の献立表
- 従来の家計計画表の費目ごとの予算額は、ひと月の合計金額のため、高齢者が日々お金を出し入れして管理していくには分かりにくい面があったが、それを解決するために、支払のサイクルごとに予算管理できるようにしたのが「支払い計画表」である。「高齢者向け家計計画表」に入力した費目ごとの金額が自動集計されて「支払計画表」に反映されるしくみが最大の特長であり、これまで手作業で計算していたものが自動で分類できるため、業務の効率化が図れるものとなった。
- ②上記の試用結果と考察
 - ・相談者の83%が「支払計画表」を「使ってみよう」と評価しており、このツールは支援に有効であると言える。
 - ・「支払計画表」使った人の中で、「うまく行かなかった」と評価した相談者が50%いたが、そのうちの70%は「再度使ってみたい」と次のチャレンジを予定している。多くは、予定外の出費によるものであり、回を重ねると理解も深まり、うまく自分で管理できると期待できる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者向け家計改善支援ツールは、認知機能が著しく低下し理解力に課題がある人には難しく、万全ではないが、理解する力が弱い人でもサポートを適切にすれば効果的なことも分かった。 ・家計相談員にとって、高齢者向け家計改善支援ツールは、相談者一人ひとりの生活に合わせた工夫とサポートを進めていく上で役立つツールであり、活用しつづけ、普及させることが重要である。 ・高齢者の支援の中で、食費のコントロールが課題となっている人も多く、外食がほとんどの食生活で栄養が偏る人も少なくないことが分かった。そのため、安い材料費を節約し、食生活も改善でき、簡単で美味しい献立「1日2人800円でくらす献立集」を作成した。今後の支援に役立てたいと考えている。
事業実施機関	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1-5-1博多大博多通ビルディング7階 グリーンコープ生活協同組合連合会 TEL092-481-6873 fax092-481-7886